

「地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場」に参加して

○気候危機の科学とリスク 社会を変えるには

東京大学未来ビジョン研究センター教授

国立環境研究所 地球システム領域 上級主席研究委員 江守正多教授

事前課題にも書いた通り、私は「脱炭素化」のためには、便利かつ環境問題の解決にもなる新たな技術が必要なのではないかと思っていました。しかし、具体的に自分がどのように行動すればいいのかはあまり分からず、モヤモヤしていました。

そこで今回、『「脱炭素化」は、渋々努力して簡単に達成できるような問題ではない。「脱炭素化」を達成するためには、単なる制度や技術の導入だけでなく人々の世界観の変化を伴う過程が必要だ』とおっしゃっているのを聞き、確かにその通りだと、環境問題に対する自分の頭の中のモヤモヤが少し晴れた気がしました。しかし、CO₂を排出することが常識となっている世界で、常識を変えるという「大変換」をおこなうためには、人々にCO₂を排出する今の世の中の仕組みよりも、多くの側面においてもっと良いと思ってもらえる技術や仕組みが必要だと思います。そこで、今の私にできることは、将来「脱炭素化」の世界をつくるために勉強することと、「脱炭素化」への「大変換」が起きるまでに、気候変動が進みすぎてしまいうまいどうしようもなくなってしまうという最悪の状況が起きないように、日々の生活を見直し行動していくことなのかなと感じました。貴重なお話をありがとうございました。

○脱炭素社会を見えるものに～市民目線のまちづくり～

京都府地球温暖化防止活動推進センター 副センター長 総合地球環境学研究所 客員准教授 / 龍谷大学政策学研究科非常勤講師 木原浩貴 博士(学術)

私は、「脱炭素化の社会」は手が届きそうだ、「脱炭素化の社会」は良い社会だということが分からないと、「脱炭素化」のために努力するのはむずかしいのではないかという意見にとっても納得しました。実際、私自身、今回の講演でドイツやオーストリアの「脱炭素化」した村の写真をみて、「脱炭素化」の社会はすばらしい社会でとても魅力ある社会だと思い、日本でも実現したいと強く思いました。環境変動のために色々我慢しなくてはいけないと考えるよりも、魅力ある素晴らしい日本を創造するために努力しようという前向きに考えたほうが環境問題のために、もっと積極的に行動できそうだととても感じました。今まで、私は環境問題にもっと積極的に取り組むためには、このまま何もしなかったときの社会の深刻さを知ることが最も大切だと思っていたし学校の授業でも深刻さばかりを教えられてきましたが、素敵な脱炭素化の社会のためにがんばろうという前向きな考え方も大切だなど、とても感じました。貴重なお話をありがとうございました。

南山高等学校女子部1年 水野理沙